

## 尼崎の在宅医・長尾和宏医師の著作を映画化

### 高橋伴明監督「痛くない死に方」3月5日公開

尼崎で在宅医療を手掛ける長尾和宏医師(62)の著書を原作とする高橋伴明監督の最新映画「痛くない死に方」が3月から関西で公開される。

高橋監督は「65歳ごろから死を意識するようになり、関連する本を読み始めた。長尾さんの本を読み、企画を説明するよりもシナリオにした

方が早いと着手しスラスラ書けた」と話す。長尾医師は「2年前の春に、築地本願寺で講演した時、監督にお会いして、まさか自分の本が映画になるなんてと驚いた。その夏、東京で始まった撮影には8割立ち会ったぞうだ。

師をモデルとする先輩の長野医師(奥田瑛一)に学びながら成長していく物語。未熟な河田が担当した患者・大貫(下元史朗)と最後に登場する本多(宇崎竜童)の臨終場面の対比が鮮烈な印象を残す。

完成した作品を見た長尾医師は「泣きました。台本の意味が映画を見てわかった。監督の頭には最初からこの映像があったんですね」。

公開は3月5日(金)からテアトル梅田、ならばパークスシネマ、神戸国際松竹ほか。12日(金)から塚口サンサン劇場。



原作・医療監修の長尾和宏医師(左)と脚本も手掛けた高橋伴明監督=2月5日、大阪市内で